



Anna先生のLife in JAPAN Vol.6

■Anna・George
1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。
2010年8月から只見町英語指導助手。
小学校と中学校で語学の指導を行います。

2カ月ほど前、私は春休みと

お花見を楽しみにしていました。ですが、3月11日の、東日本をおそった記録的な大地震と大津波。たくさんの人が命や家を失い、未だに自宅に戻っていない人もいます。聞きました。その日のことや東日本大震災後の人々への影響などについて毎日考えています。一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、ゴールデンウィーク中に友人がイングラ



ンドから遊びに来てくれました。一緒に日本のあちこちを旅行してきました。旅は東京、鎌倉、大阪、京都、奈良、日光そして福島を巡りました。実はこれが私にとっての初めての関西旅行で、わくわくしていました。たくさんの神社仏閣や庭園を見て回ることは楽しかったです。特に、大阪の水族館「海遊館」は最高に面白いと思いました。

友人は、福島の自然の美しさを特に気に入っていました。只見ダムに行き、たくさん写真を撮

撮ってきました。たくさんの日本料理を紹介するのも楽しかったです。彼女がイングラ

ンドに戻ってしまったときも悲しかったですが、彼女が日本にいる私に会いに来てくれたことは、本当に幸せでした。

写真は「三三」と京都で撮ったものです。天候に恵まれた、すてきな旅行でした。
(訳・只見中・福地)

広報ただみ診療所

朝日診療所 医師 若山 隆

『内視鏡検査前の採血検査について』

みなさんこんにちは！診療所医師の若山と申します。診療所に来てから、はや2カ月がすぎました。だいぶあたたかくなり、初夏の到来を感じます。

さて今回は「内視鏡検査前の採血検査」をテーマにお話しさせていただきます。診療所ではこれまで内視鏡検査前には、みなさんに採血検査を実施してきました。その目的は、肝炎ウイルスや梅毒などの感染症の有無を知り、感染症の危険性を判断するためでした。しかし、近年の内視鏡全体の考え方として「スタンダードプレコーシ

ョン」という考え方が重要視されています。難しい横文字で分かりにくいかと思いますが、簡単に言い換えると「すべての患者さんの血液・体液には感染症の危険があるものとして対応する」という考え方です。感染症には、肝炎ウイルス・梅毒のほかにも、HIVやピロリ菌といった検査していかない感染症もあります。未知の感染症もあります。

持っている人も持っていない人も一律に厳しい基準で実施する方が安全です。内視鏡の学会もスタンダードプレコーションを強く推奨しています。このような考え方により、当診療所でも内視鏡前の採血検査をやめることとなりました。以後は内視鏡検査のために、同日に2回採血されることもなくなると思います。

検査の結果では安全かどうか判断できないということです。内視鏡の洗浄に関しても、検査の結果で洗浄法を変えるより、検査後の内視鏡の洗浄・消毒は肝炎ウイルス・梅毒を

今後もみなさまに、より安全に、苦痛が少ない内視鏡検査が行えるように努力いたしますので、どうかよろしくお願いたします。